

企業名：富士通

1. この会社が目指す姿が理解できるか

富士通は、「イノベーションによって社会に信頼をもたらし、世界をより持続可能にしていく」という目的を追求している。また、社会問題を起点とし新たな事業を進めることを目指している。現在は、新型コロナウイルスによる不確実性の時代であり、SDGs やパリ協定に代表されるグローバルな目標の合意が行われており、これら時代に合わせた社会問題を起点として問題提起を行い、問題解決を行うことを目指していることは強く理解することが出来る。また、従来の IT 事業、総合電機企業から DX 企業へとビジネスモデルを変革することを目指している。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

IT 企業として、国内 NO 1 のシェアを誇る富士通は、非常に高い技術を持った技師を日本のみならず世界から集めている。これらは IT 業界で圧倒的な売上高を誇っており、安定した収入と労働環境を提供することが出来る富士通だからこそ可能にしていることだと思われる。また IT 業界で国内シェア NO 1 であるからこそ得られるブランド力を生かし、他社との差異化を図り企業の発展を行っている。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

IT 業界において過去 5 年間で圧倒的な売上高を誇っている富士通は、今後数年間は安定的な業績が見込め、富士通の強みであるブランド力は今後も衰える可能性は極めて低いように思われる。富士通ブランドによって世界から集められた技師は今後も、安定した収入と労働環境を求めて長期的に富士通に努めることが予測される。よって富士通の競争優位性は今後も持続することが見込まれるだろう。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

富士通では、私の人的資本の価値向上を達成できるとは思わない。

富士通に求められる力は、IT 関連に通じた能力である。社会問題を起点とし、あらゆる問題を解決していくことを目指してはいるものの、それらはすべて PC 事業、スマートフォン事業、半導体事業等の IT 関連の仕事に帰結するように感じる。私はこのような IT 関連の知識や技術は持ち合わせていないため私自身の人的資本の価値向上にはつながらないと考える。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

報告書の構成自体は、良いように思う。富士通の全体像の説明をし、CEO や幹部の挨拶があったあと、富士通が掲げる変革について記しており、会社の業務内容や組織体制について

よく理解することが出来る。しかし、報告書全体の分量が非常に多いように感じた。挿絵などが多いため、必然的に全体の分量が多くなることは仕方ないがもう少し簡潔にまとめられるように思う。